

□ (評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 2点×3≒6点

a □ b イ c 二

問二 5点

ハ

問三 8点

(模範解答例)

A ○2点

B ○3点

C ○3点

骨董品を眺め、その形から 無言の言葉を得ようと努めることによって、文学と通い合う美的なメッセージ  
を感じ取るに至ったから (59字)

各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う (A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「骨董品」を眺め、その「形から」 (2点)

△ 「骨董品への傾倒・熱中から」など、「形」のないもの ▲ 1点減点で△ 1点。

B 「無言の言葉を得ようと努めること」によって (3点)

C 「文学と通い合う美的なメッセージ (美的感覚) を感じ取るに至った」 (3点)

△ 「文学が、一種の形として感知されるに至った」という指摘になっている場合は△ 1点。

△ 「美的なメッセージ」の記述欠如で ▲ 2点減点△ 1点。

問四 3点×2≒6点

X □ Y ハ

問五 7点×2＝14点 \*①②は、順不同可

①(模範解答例)

A○4点

B○3点

眺めるとは、頭だけではなく、全身の神経を集中させて対象に向かって、美のメッセージの姿をつかみとることである。(7点)

各加点要素の加点の条件

【A・Bに関して部分採点を行う(A・Bそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A「頭だけではなく、全身の神経を集中させて対象に向かって」(4点)

B「美のメッセージの姿をつかみとること(姿を現すこと)」(3点)

○「ある種の神秘体験」という要素の有無は問わない

問六 3点×2＝6点

イ・ニ (順不同)

問七 5点

ホ

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 8 点 (2 点 × 4)

- 1 代替      2 体现      3 自明      4 組成

問二 9 点

(模範解答例)

A ○ 3 点

B ○ 3 点

C ○ 3 点

記憶の量や伝達の精度、保存の期間や伝達の到達範囲といった面で、制約があるから。 (38 字) (9 点)

各加点要素の加点の条件

A 「記憶の量や伝達の精度」 (3 点)

✖ 「十分」ではないことの内容として、「量」と「精度」について説明していないものは ✖ 0 点。

▲ 「量」と「精度」が明示できているうえで片方の記述が不十分の場合は ▲ 2 点減点。

▲ 「伝達技術」などと微妙に異なる場合は ▲ 2 点減点。

B 「保存の期間や伝達の到達範囲といった面で」 (3 点)

✖ 「十分」ではないことの内容として、「期間」と「範囲」について説明していないものは ✖ 0 点。

▲ 「期間」と「範囲」が明示できているうえで片方の記述が不十分な場合は ▲ 2 点減点。

△ 「時間的」「空間的」としているものは △ 2 点。

C 「制約があるから」 (3 点)

✖ 「十分」ではないことの端的な理由として、「制約」があることについて説明していないものは ✖ 0 点。

○ 「制約」は「制限」などでも可○。

問三 4 点 + 7 点 = 11 点

(1) 4 点

二

(2) 7点

(模範解答例)

A ○3点

西欧の知の歴史的过程の中で形成されたもので、

B ○4点

普遍的眞実を保証するものであるとは言い切れないから。 (50字)

各加点要素の加点の条件

A 「西欧の知の歴史的过程の中で形成されたもので」(3点)

✕ 「科学」が「西欧の知の歴史的过程の中で形成された」ものであることを説明していないものは✕0点。

B 「普遍的眞実を保証するものであるとは言い切れないから」(4点)

✕ 要素Aは「西欧」に限定されるため、「絶対的」「普遍的」ではないということの説明していないものは✕0点。

問四 5点

(解答)

手段として

※抜出問題のため、これ以外不可。

問五 5点

ハ

(模範解答例)

A ○3点

現前する対象、特に形をもたないものや即座に消滅してしまう対象を、

B ○3点

別の空間、時間に存在する他者へ伝達するためには、

C ○3点

別の形式で対象を保存する必要があるが、

D ○3点

その保存形式が複製を作るということになるから。(99字) (12点)

各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 「現前する対象、特に形をもたないものや即座に消滅してしまう対象を」(3点)

※第8段落をまとめ、「対象」についての説明をしていないものは×0点。

※客体として「対象」が含まれていればよい。

B 「別の空間、時間に存在する他者へ伝達するためには」(3点)

※第8段落をまとめ、要素Aを「別の時間・空間への伝達すること」についての説明をしていないものは×0点。

C 「別の形式で対象を保存する必要があるが」(3点)

※第8段落をまとめ、要素A・Bのために「対象の保存が必要であること」についての説明をしていないものは

×0点。

D 「その保存形式が複製を作るということになるから」(3点)

※第8段落をまとめて、要素Cのために「複製が作られること」についての説明をしていないものは×0点。

三 (古文) 採点基準 (合計50点)

問一 1点×3＝3点

甲 ゐ (い)      乙 よし      丙 ゆゑ (ゆえ)

「ポイント」

※いずれも正解以外は✖。

甲 ✖ 「ひぎい」「ひきゐ」「そつ」「ひ」等。※1字指定。

乙 ✖ 「ゆう」「ゆゑ」「ゆへ」「わけ」等

丙 ✖ 「ゆへ」「わけ」「こ」等

問二 (1点+1点)×4＝8点

① 意志・終止

② 過去・連体

③ 使役・連用

④ 完了・連体

※④「完了」は「存続」でも○。

「ポイント」

※いずれも漢字2字でなくてはならない。正解のとおり。

○句読点不要(不問)。

問三 3点×3＝9点

a ホ      b ハ      c ロ

「ポイント」

※同じ記号を重複して答えている場合は、一つが正解であっても、いずれも不正解とする。(設問で、「記号を重複して答えてはならない」と断りがある。)

二・ノ

「ポイント」

○順不同可○。

○同じ記号を二つ答えている場合は、片方不問。

○一つしか答えていない場合はあつていれば2点。

※三つ以上答えている場合は全問不正解※0点。

問五 4点×3＝12点

(1) (解答例) 4点

A○2点

B○2点

今夜でなかったら その恩を返すことは難しい

※「今宵にあらざは、その恩を報じがたし」の現代語訳

「採点方法」 各要素単独採点。 ※句読点の有無不問。

「ポイント」

A「今夜でなかったら」(2点)

※「今宵にあらざは」の現代語訳

※「でなかったら」の意がなければ、A※加点数なし。

※「でなかったら」同意例

○「でなければ」・「でなくては」・「でないなら」・「でなかったならば」・「でない」と「じゃなかったら」等  
※「にないなら」等

▲「今夜」の意がなければ▲1点減点。

※「今夜」同意例

○「今宵」・「今晚」・「今日の夜」等

B「その恩を返すことは難しい」(2点)

※「その恩を報じがたし」の現代語訳

※「恩返しは難しい」の意がなければ、要素B加点数なし。

※「恩を返すこと」同意例

○ 恩返し・恩に報いる等

▲1点減点「恩を報いる」

※「難しい」同意例

○「難しいのだ」・「できない」・「くがたい」・「くにくら」等

▲1点減点「難しいだろう」・「難しいに違いない」等

▲「その」がなければ▲1点減点。

○ただし、「その」の代わりに「道登大徳(道登・大徳・童・童子・あなた等)への」があれば○とする。

(2) (解答例) 4点

A ○1点      B ○1点      C ○1点      D ○1点  
私のかわいい子を      お前が      殺してしまった      のだなあ

※「わがかなしき子をば汝が殺してけるにこそありけれ」の現代語訳

「採点方法」 各要素単独採点。 ※句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「私のかわいい子を」(1点)

※「わがかなしき子をば」の現代語訳

※「かなしき子」が「かわいい子」のような意味になっていなければA ✖加点数なし。

※「悲しい子」は ✖0点。

○「かわいい子」は、「いとしい子」等でも○。

B 「お前が」(1点)

※「汝が」の現代語訳

※「お前が」の意がなければ、B ✖加点数なし。

○「お前」は「あなた」・「そなた」等でも○。

C 「殺してしまった」(1点)

※「殺してける」の現代語訳

※「殺した」の意がなければ、C 加点数なし。

○「てしまっ」の意の有無は不問。

D 「のだなあ」(1点)

※「にこそありけれ」の現代語訳

※「のだなあ」の意がなければ、D 加点数なし。

※「のだなあ」の同意例

○「のであるなあ」・「のだったよ」・「」のであるよ「」・「」のだな「」のだったなあ「」のですね「」のですねえ「」等

※「のだ」・「のだった」・「」のであった「」等 (詠嘆の表現がない場合)

※「のだろ」・「」のでしょう「」のに違いない「」等



(3) (解答例) 4点

A ○1点 B ○1点

C ○2点

まして 生きているような人が、 恩を忘れてよいであろうか。

※「いはんや生きてたらむ人の、恩を忘れむや。」の現代語訳

「採点方法」 各要素単独採点。 ※句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「まして」(1点)

※「いはんや」の現代語訳

※「まして」の意がなければ、A ✖加点数なし。

○ 「まして」の同意例 「ましてや」・「なおさら」・「さらに」・「一層」・「なお一層」等

B 「生きているような人が」(1点)

※「生きてたらむ人の」の現代語訳

※「生きている人が」の意がなければ、B ✖加点数なし。

○ 「ような」の意の有無は不問。

○ 「が」の同意例 「は」・「の」・「なら」等

C 「恩を忘れてよいであろうか」(2点)

※「恩を忘れむや」の現代語訳。疑問・反語のどちらの訳出でも可○。

※「恩を忘れてよいか」・「恩を忘れてはならない」・「恩を忘れるだろうか」・「恩を忘れない」等の意がなければ、C ✖加点数なし。

○同意例

「恩を忘れることがあるか」・「恩を忘れないだろう」・「恩を忘れるだろうか、いや忘れない」  
・「恩をわすれてはいけない」等

(解答例)

A〇1点

B〇3点

C〇2点

童子を連れ出した人が、自分は兄に殺された死者だと言って、姿が見えなくなったこと。(6点)

※20ページ、第4段落1行目の傍線部B「奇異なり」について、童子はどのようなことを「奇異なり」と思ったのかを、第3段落の内容、特に次の二点を踏まえて40字以内で説明する問題。

①2行目「われ昔兄とともに商ひせむがために」以降の会話文によって、童子を連れ出した「人」が兄によって殺された死者であるとわかること。

②最終行の「その人見えずなりぬ(＝忽然と姿を消した)」という不思議さ

〔採点方法〕 要素B・Cは各要素単独採点。要素Aは要素B・Cと連動採点。

○文末表現は、「～こと。」が望ましいが、その他の名詞で終わっていたり、「～」を奇異に思った。」のような文末の説明の仕方になっていたりしてよい。

○句読点の有無不問。

〔ポイント〕

○「もてなしをした・恩返しをした」という内容の有無は不問。

A「童子を連れ出した人が」(1点)

※「童子を連れ出した人が」の意がなければ、A※加点なし。

※同意例 ○「自分(童子)を家まで連れてきた人が」等

※「人が「人」が」等

※「霊が・頭骨の霊が・骸骨が人となって・死体が現れて」

※これら初めから「人」を死者としている表現は要素Aとしての加点はなし。

○ただし、要素Bの「自分は死者だと言った」に相当する表現としては認める。

B「自分は兄に殺された死者だと言って」(3点)

※「兄に殺されたと言った」、もしくは「自分は死者だと言った」の意がなければ、B※加点なし。

△「兄に」がなく、「殺されたと言った・殺された経緯を語った」のようにしている場合は△2点。

△「殺された」の意がなく「自分は死者だと言った」の意がある場合は△1点。

※「自分は死者だと言った」同意例

○「霊が・頭骨の霊が・骸骨が人となって・死体が現れて」等

(「人」が死者であることがわかる表現があれば〇とする)

C「姿が見えなくなったこと」(2点)

※「姿を消した・消えた・見えなくなった・いなくなった」の意がなければ、C※加点なし。

○「姿を消した・消えた・見えなくなった」の意があれば〇2点。

△「姿を消した・消えた・見えなくなった」の意はないが、「いなくなった」の意がある場合は△1点。

※同意例

○「消えていなくなったこと・姿が見えなくなったこと」等

(解答例)

A○4点

鬮となつて人に道で踏まれていたのを助けられた恩返しとして食事を振る舞うことと、

B○4点

母と引き合わせて、自分が盗人に殺されたというのは兄の嘘で、実際には兄に殺されたのだという自分の死の真相を伝えさせること。

※問題 20ページ、第2段落1行目の傍線部A「人」が童子の前に現れた目的について、本文全体、特に次の二点を踏まえて、100字以内で説明する問題。

①第3段落4～6行目の「人」の言葉「その後。年月を経て、それを食はしめむがために率て来れるなり」(「要約」鬮となり道で踏まれていたのを助けられた恩返しに食事を振る舞おうと考えた)。

②第2段落3行目で「今宵にあらずは(「今夜出なくては)」と言って「人」が「童子」を誘い出し、兄に殺された事実を打ち明けた上で、母や兄と対面するように仕組んだこと(第2～3段落)。

〔採点方法〕 各要素単独採点。

○文末表現は「～こと。」が望ましいが、「～という目的。」等、説明が成立していればどのような表現でもよい。  
○句読点の有無不問。

〔ポイント〕

A 「鬮となつて人に道で踏まれていたのを助けられた恩返しとして食事を振る舞うこと」(4点)

○「兄に殺されて」という内容、「木の上に」という表現の有無は不問。

※「恩返し」の意がなければ、要素A加点なし。

※「恩返し」同意例 ○「お礼」・「恩を返す」・「恩に報いる」・「報いる」・「感謝」等

▲「食事を振る舞う」の意がない場合は▲1点減点。

○「恩返し」の対象が「道登(体徳)・僧」となつていてもよしとする。

▲ただし、食事を振る舞う相手が「道登(体徳)・僧」となつている場合は▲1点減点。

▲「鬮(死体)となつていたのを助けられたので」の意がない場合は▲1点減点。

※「助けられた」同意例 ○「苦しみから解放された」・「供養してくれた」・「木の上に置いてくれた」・「拾ってくれた」・「安置してくれた」・「脇によけてくれた」・「供養してくれた」・「弔ってくれた」等

▲「踏まれていた・転がっていた」等の意がない場合は▲1点減点。

B 「母と引き合わせて、自分が盗人に殺されたというのは兄の嘘で、実際には兄に殺されたのだという自分の死の真相を伝えさせること」(4点)

※「母に死の真相(真実)を伝える(知らせる)こと」という内容が読み取れなければ、B※加点なし。

○「盗人に殺されたというのは嘘」か「兄に殺された」のいずれかがあれば「真相(真実)」に相当する表現はなくてもよい。

▲「母に」の意がなければ、▲1点減点。

○「童子を介して」の意の有無は不問。

▲ただし、「道登(体徳)・僧」に死の真相を伝えさせるとなつている場合は▲1点減点。

▲「盗人に殺されたというのは嘘」の意がなければ、▲1点減点。

※同意例 ○「盗人に殺されたという嘘をあばき」等

▲「兄に殺された」の意がなければ、▲2点減点。

○「銀が欲しくて」という内容の有無は不問。

四 漢文 50点

問一 2点×4＝8点

- a ひととなり      b あつ・あたる  
c おわ              d およそ

〔採点のポイント〕

▲歴史的仮名遣いは減点。例 c 「おは」は1点。

✖ a … 「ひとのために」は不可。

○ b … 「あたる」も可。

✖ c … 「ついに」は不可。

✖ d … 「おおよそ」は不可。

問二 5点×2＝10点

(i) 5点

A ○2点

B ○2点

C ○1点

(解答) あへて おうずる ( こたふる ) もの なし

〔採点のポイント〕

▲設問文には「すべてひらがなで」とあるので、漢字にしている場合は一か所につき、▲減点1点とする。

○ A 「あへて」は「あえて」も可○。

○ B 「おうずる」は「こたふる」「こたうる」も可○。

▲ 「おうじる」「こたえる」は▲減点1点で△1点。古典文法に従うように注意。

○ 「くものは」のように「は」や「も」があっても許容。

✖ C 「ない」は0点。

(ii) 5点

A ○2点

B ○2点

C ○1点

(解答例) 進んで 応じようとする者は いなかった。

「採点のポイント」

- A・C「決して〜ない」「一人も〜ない」も可。
- C「いない」「いなかった」不問。
- × A「あへ（え）て」を訳していない場合は×0点。
- 全体でABCの意味になる書き方「誰も返事をしなかった」「わざわざ返事をする者はいない」なども○。

問三 5点+6点=11点

B (5点)

X 0点 (×は▲2点)    A 0点    B 0点

(解答例)    太郎なら    小笠懸けが    できるでしょう。

「採点のポイント」

- X「太郎」は「北条時宗・時宗」も可。
- × Xは不問だが、間違った主語を書いた場合▲2点減点。
- A「小笠懸け」は「小笠懸」「弓の大会」も可○。
- ▲ A「小笠懸け」を、単に「射ること」としている場合は▲1点減点。
- B「できるだろう」も可○。
- ▲ Bに推量がない場合、▲減点1点。
- B「できる」は「能力がある」でも○。
- × B「できる」は「よくする」「うまい」「上手」などは不可×。

D (6点)

A 0点    B 0点

(解答例)    宋が元によって滅ぼされ、    諸方の隣国も皆元に服従した。

「採点のポイント」

- A「宋が元によって滅ぼされ」(3点)
  - ▲ 受身で訳していないものは▲減点2点。
  - 「宋」は「宋氏」「宋朝」「宋王朝」も可○。
  - ▲ 「宋」または「元」が書かれていないものは▲減点2点
- × 「宋」「元」の関係性の正しくないものは×。(例：×「元が宋によって滅ぼされ」)
- ※ 「宋」の誤字に注意。「宗」などは▲減点2点。
- 「元」は「胡元」も可○。

B 「諸方の隣国も皆元に服従した」(3点)

○ 「服従」「従う」など。

✕ 「征服された」は不可✕。

問四 6点

A ○2点

B ○1点

(解答例) 見物をしていましたものすべてが 一斉に

C ○3点

時宗の弓の技量を褒めたたえた ということ。

「採点のポイント」

A 「見物をしていましたものすべてが」(2点)

▲ 「見物をしていました」「見た」がない場合／(そこにいたもの)「すべてが」が無い場合は、▲減点1点。

○ 「観衆」「見物していた大勢の人」「その場にいた人」も許容。

B 「一斉に」(1点)

○ 「一斉に」は「同時に・一緒に・そろって」なども許容。

C 「時宗の弓の技量を褒めたたえた」(3点)

※ 「時宗」、「弓の技量」、「褒めたたえた」に各1点。

○ 「時宗」は「北条時宗」「太郎」も可○。

○ 「弓の技量」は「小笠懸(け)の成功」「弓の腕前」など可○。

「弓・小笠懸」の表現がなくとも「成功」などがあれば許容。

○ 「褒めたたえた」は「歓声を上げた」など可。

問五 3点×2＝6点

(i) (3点)

A ○1点

B ○2点

(解答例) 元からの国書に 返事をする こと (に) 対して

「採点のポイント」

○ A 「国書」は「手紙」「文書」も可○。

○ A 「元」は「元主」「元の君主」「フビライ(＝ハン)」などでも可○。

☆全体「貢(ぎ)物を送る」「征服される」となっているものは全体で☆1点。  
※句末の「を」は不問。

(ii) (3点)

A 〇2点

B 〇1点

(解答例)

国書に使われている言葉が 失礼であった(から)

「採点のポイント」

○A 「国書」は「手紙」「文書」「書面」も可○。

○B 「失礼」は「無礼」も可○。

問六 9点

A 〇3点

(解答例)

幼少の時から將軍の前でも臆することなく、矢の腕前を披露し、

B 〇3点

執権になつてからは、元の度重なる脅迫にも屈せず、使者を追い返し、九州に

C 〇3点

侵攻した元軍を諸將に命じて撃退させた 豪胆な人物。

「採点のポイント」

※時宗のエピソードと、それを表す性格(「強毅にして撓まず」)をまとめる。

A 若い時のエピソードをまとめる。

↓並みいる大人たちが尻込みする中、わずか十一歳の時宗が將軍の命に伝えて、見事に矢を的的中させたこと。  
△「臆することなく」の意が無く、たんに「弓が上手い」だけでは△2点。

B 執権になつてからのエピソードをまとめる。

↓元が送ってきた脅迫的な国書に対して、無礼であるとして毅然とはねつけた。  
↓対馬・壱岐に侵攻してきた元軍に対して、鎮西(九州)の諸將を派遣して撃退した。  
△エピソードが1つの場合、△2点。

C 時宗の性格を表す言葉でまとめる。(解答例の赤字のような語)

○「豪胆」「豪傑」「胆力がある」「毅然とした」など同様の意を表す語は可○。  
△「非常に優れた」など評価が抽象的すぎる場合は△2点。

以上